



名古屋大学博物館

要覧 2024-2025



1. はじめに



本年4月より名古屋大学博物館長に就任しました。この重責を受け止めながら、館の発展に寄与していきたいと思っております。

創設24年を経た当館の特徴は、館内スタッフ、研究協力者、訪問者、所属する院生による、国内のみならず、世界中のフィールドにおいて、幅広い分野での独自の研究、資料収集を展開していることです。このような研究活動を通して行う次世代を担う若手の育成も、大学博物館の重要な責務の一つだと考えています。

博物館では、名古屋大学の研究成果等を紹介する特別展や企画展を創設以降継続的に開催しています。またそれらに関する種々の講演会のほか、博物館コンサート、小・中学生向けの次世代教育「地球教室」などのイベント、友の会活動など、実に様々な教育普及活動や地域貢献を行っており、今後も当博物館の重要な活動の柱として実施していくつもりです。

創設当初は、年間数百人にも至らなかった来館者が、現在では3万人を越えます。これまでの活動の広がりや、大学や、学生たち、地域ボランティアの方々などの支援のおかげです。今後も新たな研究成果の紹介を含めながら、展示内容をリニューアルしつつ、さらに楽しんでもらえる博物館にしていきたいと思っておりますので、これからも皆様のご協力を頂きたく、お願い申し上げます。

2024（令和6）年4月

名古屋大学博物館長 吉田 英一

2. 概要

沿革

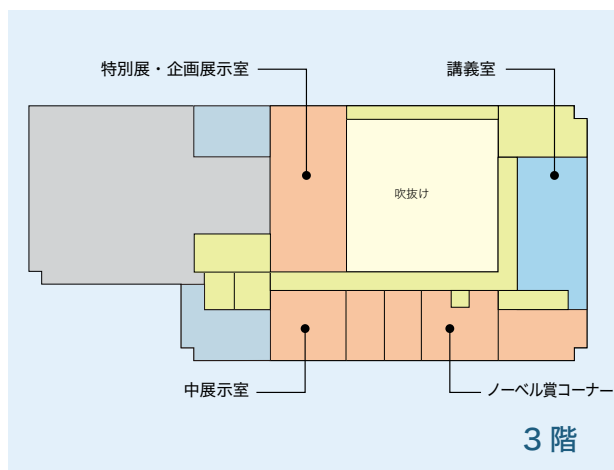
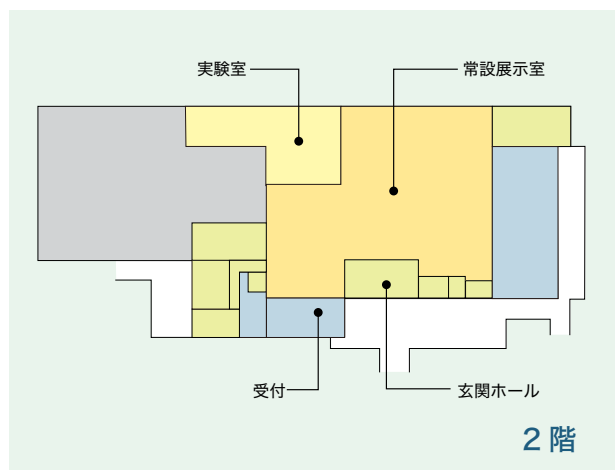
名古屋大学博物館設立の経緯は、1979(昭和54)年の「自然史科学資料研究センター」設置の概算要求にはじまり、1982年には「名古屋大学総合研究資料館」が学内措置として設立された。同年、名古屋大学中央図書館の前身である古川図書館の建物を総合研究資料館に改修する工事が、古川為三郎・志ま夫妻のご厚志のもと行なわれ、資料の一般公開が始まった。その後、「年代測定資料研究センター」を経て、文部省学術審議会報告「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について」(1996年)をうけ、全国で5番目の国立総合博物館(省令施設)として2000年に「名古屋大学博物館」が誕生した。2003年にはキャンパスミュージアム構想の一環として、博物館野外観察園とセミナーハウスが整備され、2007年には耐震改修工事とバリアフリー工事が、そして2009年には収蔵庫の改修を行い現在に至っている。

理念と目標

当館の設置目的は、社会に開かれた名古屋大学の窓口として、本学所蔵の学術標本・資料、ならびに大学における研究成果のフィードバック・資源化・社会還元を総合的かつ国際的に行う。基本目標は、以下の5点である。

1. 学術標本・資料の収集・研究・保存をすすめ、名古屋大学が研究や教育で培ってきた知の継承をはかる。
2. 実物標本・資料の展示や野外における自然観察を実施して、現在の教育システムで欠落している「自然やモノに触れて、そして見て考える」場を次世代教育や生涯教育に提供する。
3. 大学と社会のインターフェイス・情報発信センターとして、大学の研究教育の成果や現状を展示・公開するとともに、「キャンパスミュージアム」を推進する。
4. 異分野交流による新たな知の創造の場を提供する。
5. 地域の博物館や大学博物館との協力および国際的な博物館連携を推進する。

博物館（古川記念館）展示スペース 2階・3階



3. 活動

貴重な学術研究資料の収集・調査研究・整理保管という、博物館としての基本的な活動や学芸員資格取得教育の実施に加え、「社会に開かれた大学の窓口」としての役割を重視して、以下のような社会貢献・地域連携活動を行っている。

1. 展示

博物館（古川記念館）の2階では常設展示（約350㎡）、3階では特別展・企画展等のスペース（約400㎡）、および野外観察園セミナーハウス2階での展示のほか、ES総合館2階2008ノーベル賞展示室などでのいくつかのサテライト展示も行い、名古屋大学や博物館における研究の歴史・成果、あるいは現在進行中の研究を紹介している。

2. 社会貢献

次世代教育（小～高生対象）：電子顕微鏡等を使ったワークショップ（名大博物館探偵）や、名古屋市科学館などと連携したフィールドセミナー「地球教室」、文部科学省の高等学校自然科学振興事業（SSHやSPP）への協力を行っている。

地域との交流：「博物館特別講演会」、「野外観察園見学会」、「博物館コンサート」、名古屋市教育委員会生涯学習課「大学連携キャンパス講座」を実施している。

キャンパス・ミュージアム：東山キャンパスに残る里山の自然や、歴史遺産に加え、ノーベル賞受賞記念碑や記念建築物などを紹介し、キャンパス全体を市民に開かれた「憩いと思案の空間」とするための整備を2008年から進めている。

友の会活動：会員向けの「企画展ギャラリートーク」や「ボタニカルアート講座」の実施、ボランティアとして博物館のサポートを行っている。

3. 出版・公開

名古屋大学博物館報告：博物館標本の目録や標本を用いた研究の成果、展示の記録などを出版し、ホームページで無料公開している。

標本・展示図録：「ホモサピエンスの起源とアフリカの石器時代—ムトングウェ遺跡の再評価」、「名古屋大学博物館野外観察園ハンドブック」、「誇張なきアート—科学記録にみる美」、「球状コンクリーションの謎」などの展示に関する図録を出版している。

4. 標本の収集・研究

博物館スタッフによる収集と研究：地質学、動物学、植物学、考古学などを専門分野として教員が自ら国内外のフィールドで学術標本を収集し、その研究成果を展示するなど博物館活動の学術的基盤として活用している。

学内や地域からの寄贈：名古屋大学で行われた代表的研究に用いられた学術標本や研究機器のほか、大学教育・地域貢献に資する標本の収集・整理を進めている。

5. 標本の整理・保存

学内や地域の研究者と連携しながら収蔵標本の整理を進め、標本リストを「名古屋大学博物館報告」やホームページで公開している。

6. 大学教育

名古屋大学全学生向けに、博物館学芸員取得講座の実施、名古屋大学大学院と協力体制をとりながら、博物館教員の研究フィールドや標本を生かした講義やセミナーなどの教育活動を行っている。

展示案内



2階常設展示 マッコウクジラの骨格標本

顕微鏡観察する来館者

考古資料を閲覧する来館者

名古屋大学博物館の活動



4. 常設展示

2階展示室

1. 電子回折装置と名古屋大学電子顕微鏡開発の歴史

名古屋大学の電子顕微鏡開発研究の歴史を実物機器によって紹介。おもな展示品：電子回折装置、電子顕微鏡 HU - 2 型、実体顕微鏡観察コーナー付近ではコミュニティースペースとして活用。卓上型走査型電子顕微鏡 TM - 1000 (日立ハイテクノロジーズ寄贈) を使用し、ワークショップも開催。

2. 濃尾平野の生き立ちと木曾三川流域の自然誌

おもな展示品：濃尾平野の東西地下断面図、中部日本重力異常図、猿投山北断層はざとり標本、羽沢貝塚はざとり標本、木曾大ヒノキ輪切り標本、木曾馬骨格標本 (最後の純血木曾馬・第三春山号) などを展示。

3. 岩石・化石から学ぶ地球と生物の進化

オーストラリアで採取された太古代の枕状溶岩・縞状鉄鉱層からカンブリア紀の爆発的動物進化の証拠と言われている化石標本や大量絶滅の直前の時代の恐竜の化石標本などを展示。

4. マッコウジラの骨格標本

2009 年に名古屋港に流れ着いたマッコウジラの全身骨格。標本作成過程なども解説。

5. 人類を進化させた石器 ～アフリカと西アジアにおける原人・旧人・新人の遺跡調査

数十万年前の原人が使っていた大型の石包丁や、6～5 万年前のネアンデルタール人がウシやガゼルの狩猟に使っていた石槍、私たちホモ・サピエンス (新人) の祖先が 5～4 万年前に使っていた石刃石器などを展示。

3階展示室

6. 名古屋大学におけるノーベル賞研究コーナー

ノーベル賞をたたえて - 野依良治博士 (2001 年化学賞)、小林誠・益川敏英博士 (2008 年物理学賞)、下村脩博士 (2008 年化学賞)、赤崎勇・天野浩博士 (2014 年物理学賞) の研究足跡や人柄を紹介 (その他、ES 総合館 2 階にも関連展示が公開されている)。

7. 名古屋大学歴史コーナー

名大の歴史年表、脳神経外科のさきがけ齋藤眞、電子機器、キャンパス・ミュージアムの取組を紹介。

8. 球状コンクリーション

国内外の様々な球状コンクリーションを紹介。その形成メカニズムや内部に含まれている保存良好な化石のほか、火星で発見されたものと同じメカニズムで形成されたと考えられる鉄コンクリーションなどを展示。

9. 収蔵展示コーナー

名古屋大学が収集した日本と世界の考古資料や、ハサミの形と機能の研究に用いられたカニやヤドカリの標本を収蔵した部屋を名大祭等のイベント時に公開。



ツノガイコンクリーション



トラフカラッパ



ハンドアックス

5. 主な収蔵資料

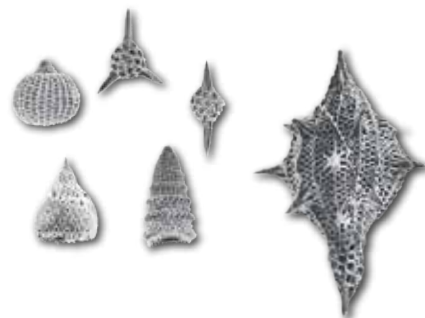
本学の教育研究活動にこれまで使用されてきた標本資料類に、大学研究に関係のある市民からの様々な寄贈品を加えた以下のような収蔵資料（総計約 26 万点）を大切に保管整理し、将来における多面的な活躍に備えている。

（* は、当館の出版物ないしホームページ上でリストや内容が公開されていることを示す。）

- 1. 岩石・鉱物系標本：**アフリカ大陸の岩石（名古屋大学調査隊採集アフリカ岩石コレクション*）；オーストラリア、中国、南極の岩石・鉱物；ギベオン鉄隕石；球状コンクリーションなど
- 2. 化石標本：**放散虫* など中・古生代微化石コレクション；恐竜骨格標本；アンモナイト；新生代の軟体動物化石；古生代サンゴ化石など
- 3. 現生動物標本：**名帝大時代の動物液浸標本；木曾馬・ニワトリ骨格標本；福田宗一関係標本；キクイムシ標本；ヒトの胎児の連続組織切片*；甲殻類標本など
- 4. 現生植物標本：**高木典雄蘚苔類コレクション*；木材標本；吉崎誠海藻コレクション*；野外観察園の植物標本*
- 5. 歴史資料・文書記録等：**大道寺家文書*；植村直己関係資料；浅見アジア民族資料コレクション（中国年画* など）；樋田直人コレクション（蔵書票* など）；毛利フーフエラントコレクション*；奈良坂源一郎関係史料*；熊澤正夫研究資料*；結城陸郎名誉教授の教育史研究関連資料*；山本時男研究資料*；アフリカの考古遺跡調査の写真スライド（大参義一資料）*；不破家華岡流手術図譜* など
- 6. 機器類標本：**電子回折装置・電子顕微鏡関係（ラングカメラ、超高圧電顕の鏡筒（一部）など）；旧教養部物理教室所蔵教育機器類；整流器ベルト一口；ダクテッドファン型 VTOL 実験機；名高商（名大経済学部）商品見本；医療機器類（本荘鈴平資料* など）
- 7. 地図資料：**志知コレクション（重力判定基本図）
- 8. 映像資料：**電子顕微鏡関連；齋藤真関連；木曾馬関連；名大アフガニスタン栄養調査隊の記録；雛の雄雌鑑別法
- 9. その他：**マウス個体記録カード；名古屋大学医学部旧蔵ムラージュ* と解剖組織学図



ウミユリ化石



放散虫化石（大きさ約 0.1mm）



ギベオン鉄隕石（重さ約 90kg）



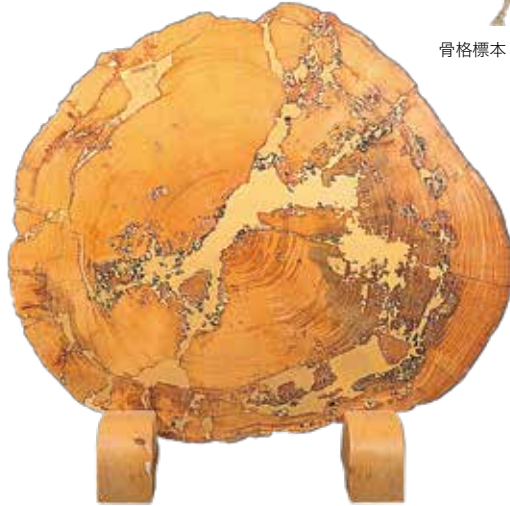
奈良坂源一郎資料



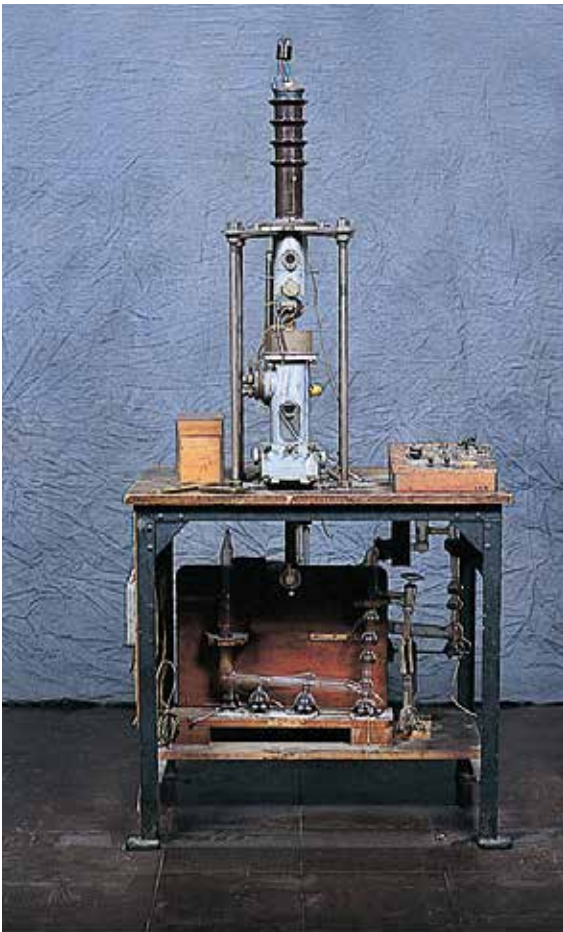
骨格標本 純血木曾馬「第三春山号」



ムラージュ



木曾ヒノキ (直径約 2m)



電子回折装置



恐竜エドモンドサウルスの産状化石



ダクトッドファン型 VTOL 実験機

6. 特別展・企画展

名古屋大学博物館では、設立以来毎年2～3回程、大学のこれまでの研究成果に基づいた特別展、企画展を行っている。以下に近年の主な展示内容を示す。

名古屋大学博物館 第32回特別展 飛騨の自然 一石と植物と人と

本展示会では、飛騨の特有な自然環境や人々の暮らしなどについて、①飛騨のあしもと、②飛騨の植物、③飛騨に生きる - 資源 -、④飛騨に生きる - 防災・減災 -、⑤飛騨山脈ジオパーク構想の5つのコーナーを設け紹介する。

2024年6月4日(火)～10月19日(土)



名古屋大学博物館 第31回特別展 球状コンクリーションの謎II 化石生成プロセスと応用

球状コンクリーションとは、地層（堆積物）中の碎屑粒子（砂や泥）の隙間が鉱物で充填され、非常に緻密で硬くなっている球状岩塊のことで、世界中の地層から発見されている。本展示では、これまでの研究成果のほか、開発した「コンクリーション化剤」などコンクリーション化の応用と活用の可能性について紹介する。

2023年11月28日(火)～2024年5月11日(土)



〈その他の近年の特別展及び企画展は以下の通り〉

特別展一覧

第30回 深海の世界 化石発掘調査からわかってきたこと	2023年6月6日(火)～10月21日(土)
第29回 岐阜大・名古屋大 博物館コラボ展	2022年10月11日(火)～2023年5月6日(土)
第28回 世界の発酵食をフィールドワークする	2021年3月22日(火)～9月24日(土)
第27回 結晶展 一研究者を魅了する多様な結晶たち	2021年4月27日(火)～11月6日(土)
第26回 アフリカから東山キャンパスまで 名古屋大学による遺跡調査からみる人類史	2020年3月17日(火)～2021年4月10日(土)
第25回 名古屋大学キャンパスミュージアム展	2019年5月28日(火)～10月19日(土)
第24回 カニコレ'18 -カニのハサミは使いよう	2018年5月29日(火)～10月20日(土)
第23回 球状コンクリーションの謎 - 化石永久保存のメカニズム	2017年3月14日(火)～7月8日(土)

企画展一覧

第40回 木彫り熊展 一木彫り熊 北海道八雲町と尾張徳川家の関わり	2021年11月30日(火)～2022年2月26日(土)
第39回 ポタニカルアートと植物分類学ことはじめ	2019年11月26日(火)～2020年2月22日(土)
第38回 おどる色彩 舞うびき	2018年11月20日(火)～2019年2月16日(土)
第37回 春を迎える ～年画に込められた願いと意図	2018年2月6日(火)～5月12日(土)
第36回 計る 測る 量る -明治～平成のアナログ計測・観測・計算機器	2017年11月7日(火)～2018年1月20日(土)
第35回 ムシの世界	2017年7月25日(火)～10月21日(土)
第34回 誇張なきアート -科学記録にみる美	第1期 2016年11月15日(火)～2017年1月28日(土) 第2期 2017年1月31日(火)～2月25日(土)
第33回 台湾 朱振南 書画の世界 -書による日台文化交流と後藤新平の再評価	2016年9月13日(火)～10月29日(土)

7. 講演会・イベント

連携博物館講座

地球の誕生から現代に至る大きな歴史“ビッグヒストリー”を、名古屋大学博物館と南山大学人類学博物館の研究者が、博物館資料を駆使して語る連続講座。理系・文系の枠を超えて、大学博物館が新しい知の領域へ挑む。



連携講演会の様子

名古屋市教育委員会連携講座

名古屋市教育委員会生涯学習課との連携で「大学連携キャンパス講座」として、講演会等を数回開催。テーマは、特別展・企画展に即した内容となる。



大学連携キャンパス講座の様子

標本に学ぼう！

博物館標本の魅力に迫る企画。第一弾は、名古屋大学博物館で行われている研究を、標本の見方や考え方などの点から紹介。第二弾では、研究アドバイス会として、参加者自らの探究心にスタッフが寄り添い、共に学ぶ。



石器づくり体験の様子

野外観察園見学会

春と秋の2回、野外観察園をガイドツアー形式で紹介。普段は開放されていない「研究ゾーン」にも立ち入ることができる。セミナーハウスにて植物の観察会なども同時開催。



野外観察園の植物を顕微鏡観察している様子

フィールドセミナー地球教室

野外での自然観察と博物館での実験を組合せた2日間の体験プログラム。名古屋近郊で化石や鉱物を探したり、愛知県の石ピッチストーンや火山がつくった化粧品の観察から、地球のしくみや歴史を知る、名古屋市科学館との連携事業。



ハンマーを手に鉱物を探す様子

出張！名大博物館

名古屋市科学館やショッピングモールなどの会場に、名古屋大学博物館の収蔵資料を持ち出し、標本の魅力を紹介。名古屋大学博物館学生スタッフ団体(MusaForum)のメンバーが選ぶ「推し標本」に、工夫と魅力を詰め込む。



学生スタッフが標本の魅力を紹介

博物館コンサート

名古屋大学博物館（古川記念館）の特徴ある吹き抜け建築を活用し、コンサートを開催。コンサートの日には、名古屋大学の学生や教職員などが奏でる音楽とともに展示室が開放される。



コンサートの様子

8. 野外観察園

野外観察園（月～金曜日 10時～16時 開園）は名古屋大学東山キャンパスの南部に位置する4320㎡の植物園である。1963年に造成され、研究・教育用の植物が栽培されてきた。教養部廃止による情報文化学部・人間情報学研究科への移管後、2003年度から博物館が管理・運営を行っている。セミナーハウスも併設され、1階は実習室、2階は展示室として活用している。園内には約800種の植物が生育している。



セミナーハウス2階展示室



観察会の様子

園内の貴重な生き物例

1. 絶滅危惧植物

ヒトツバタゴ（モクセイ科）：日本では愛知県犬山市の他に岐阜県東濃地方、長崎県対馬市にしか分布しない落葉樹で、愛知県および全国の絶滅危惧種に指定されている。ナンジャモンジャという名でも知られる。



ヒトツバタゴ

ホルトノキ（ホルトノキ科）：野生のものは愛知県では南部でしか見られず、絶滅危惧種に指定されている。「ポルトガルの木」が名の由来だが、本来この名前はオリーブについたもので、平賀源内がこの木をオリーブと間違えたため、結局「ホルトノキ」がこの木の名になったといわれている。

2. 生きた化石

ラクウショウ（ヒノキ科）：この植物の仲間の化石がジュラ紀の地層から発見されているため「生きた化石」と呼ばれる。原産はアメリカ東南部・メキシコ。湿地に生え、膝を曲げたような根（膝根）を出す。



ラクウショウ

3. 貴重な昆虫

ハッチョウトンボ（トンボ科）：日本における最小のトンボ。環境省が定めた「指標昆虫」10種のうちの1種に含まれ、良好な自然環境の指標になっている。名古屋市内の矢田川付近にあったとされる「矢田鉄砲場八丁目」で発見されたという記録からこの名がついたといわれている。

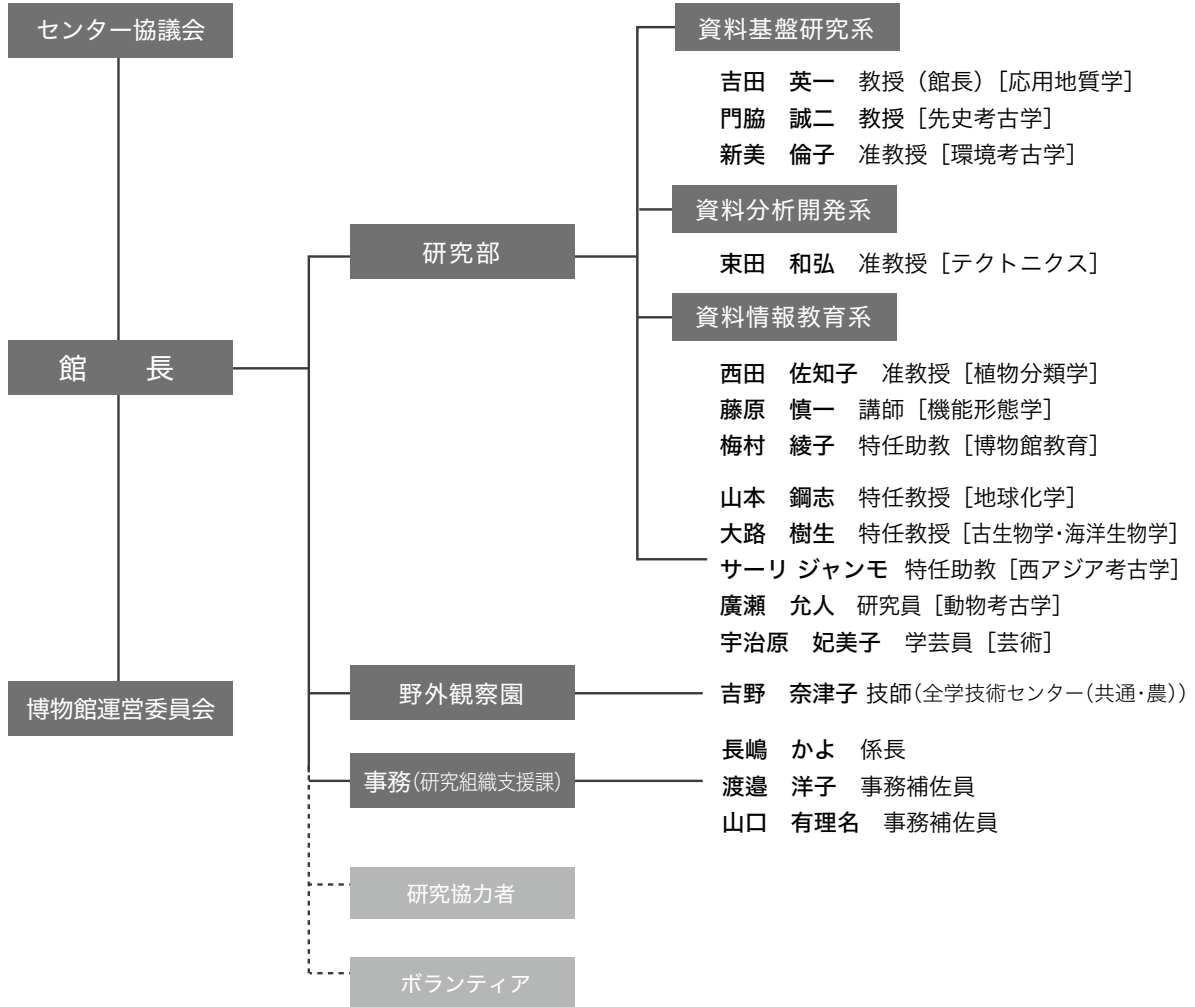


ハッチョウトンボ

9. 組織

名古屋大学博物館組織図

(2024.7.1 現在)



名古屋大学博物館運営委員会委員名簿

部局名	職名	氏名	部局名	職名	氏名
博物館	館長	吉田 英一	附属図書館	副館長	浅川 晋
人文学研究科	教授	佐々木 重洋	大学文書資料室名古屋大学 史資料・編纂部門	部門長	吉川 卓治
教育発達科学研究科	教授	石井 拓児	施設・環境計画推進室	講師	三森 弘
法学研究科	教授	小畑 郁	博物館	教授	門脇 誠二
経済学研究科	教授	玉井 寿樹	博物館	准教授	新美 倫子
理学研究科	准教授	伊藤 英人	博物館	准教授	束田 和弘
医学系研究科	教授	新家 一輝	博物館	准教授	西田 佐知子
工学研究科	教授	CHAVAS Leonard Michel Gabriel Henri	博物館	講師	藤原 慎一
生命農学研究科	教授	渡邊 彰	博物館	特任助教	梅村 綾子
情報学研究科	准教授	笠木 雅史	研究組織支援課	課長	宿輪 宏典
多元数理科学研究科	教授	藤原 一宏	研究組織支援課	課長補佐	森野 小百合
環境学研究科	教授	日高 洋	研究組織支援課	係長	長嶋 かよ

10. キャンパスミュージアムの推進

名古屋大学キャンパスマップミュージアム&ギャラリーを発行し、博物館や、ギャラリーなどの展示施設を紹介している。

R6 名古屋大学キャンパスマップ Museum & Gallery

名古屋大学東山キャンパスには博物館、ギャラリーなどの展示施設が多数あります！カフェなどで休憩しながら、楽しく学んでみましょう。

11 C-TECs AMANO Gallery

2014年ノーベル物理学賞を受賞した天野浩教授の功績を顕彰することを目的に、エネルギー変換エレクトロニクス研究館 (C-TECs) 1階に設置。開館時間: 8:30-17:15 休館日: 日・土曜・祝 ※AMANOギャラリーへは、個別取次でご利用ください。

10 野依記念物質科学研究館 ケミストリーギャラリー

ケミストリーギャラリーでは、2001年ノーベル化学賞を受賞の野依良治特別教授の研究について展示。開館時間: 10:00-16:00 休館日: 日・土曜・祝

9 ITbM・ITbM Gallery

学術的分子研究拠点「トランスフォーメティブ生命分子研究所 (ITbM)」。1階エントランスのギャラリー部分のみ公開。開館時間: 9:30-19:30 休館日: 日・土曜・祝 ※展覧会の開催状況はITbM GalleryのHPで確認ください

8 ES総合館・2008ノーベル賞展示室

小林誠博士、益川敏英博士の2008年ノーベル物理学賞、下村脩博士の2008年ノーベル化学賞の受賞を記念し開設された。坂田記念史料室も併設。開館時間: 10:00-16:00 休館日: 日・月曜・祝

7 減災館

減災館は、防災・減災に関する最先端研究や学びの場。展示やセミナーを公開。 ※開館日時の詳細はHP等で要確認。

6 赤崎記念研究館

赤崎勇特別教授の研究業績を始め、青色LEDの開発に関わった実験機器などを展示。開館時間: 10:00-16:00 休館日: 日・月曜・祝

5 中央図書館・OKB大垣共立銀行高木家文書資料館

名大の学術情報センター。学外の方も所蔵資料の一部が利用可能。資料館では「高木家文書」の常設展示を開催。 ※開館日時の詳細はHP等で要確認。

4 「20の点と10の直線」フェリチェ・ヴァリーニ

スイス生まれでフランス在住の現代美術アーティスト、フェリチェ・ヴァリーニによるパブリックアート。不思議な赤い線の空間を体験！中庭のある一点に立つと、見事な光景が浮かび上がります。

3 プロジェクトギャラリー「clas」

名大の授業および学生・教職員・OBOGらの教育と研究、社会的活動にかかわる展示を行っています。 ※開館日時の詳細はfacebook等で要確認

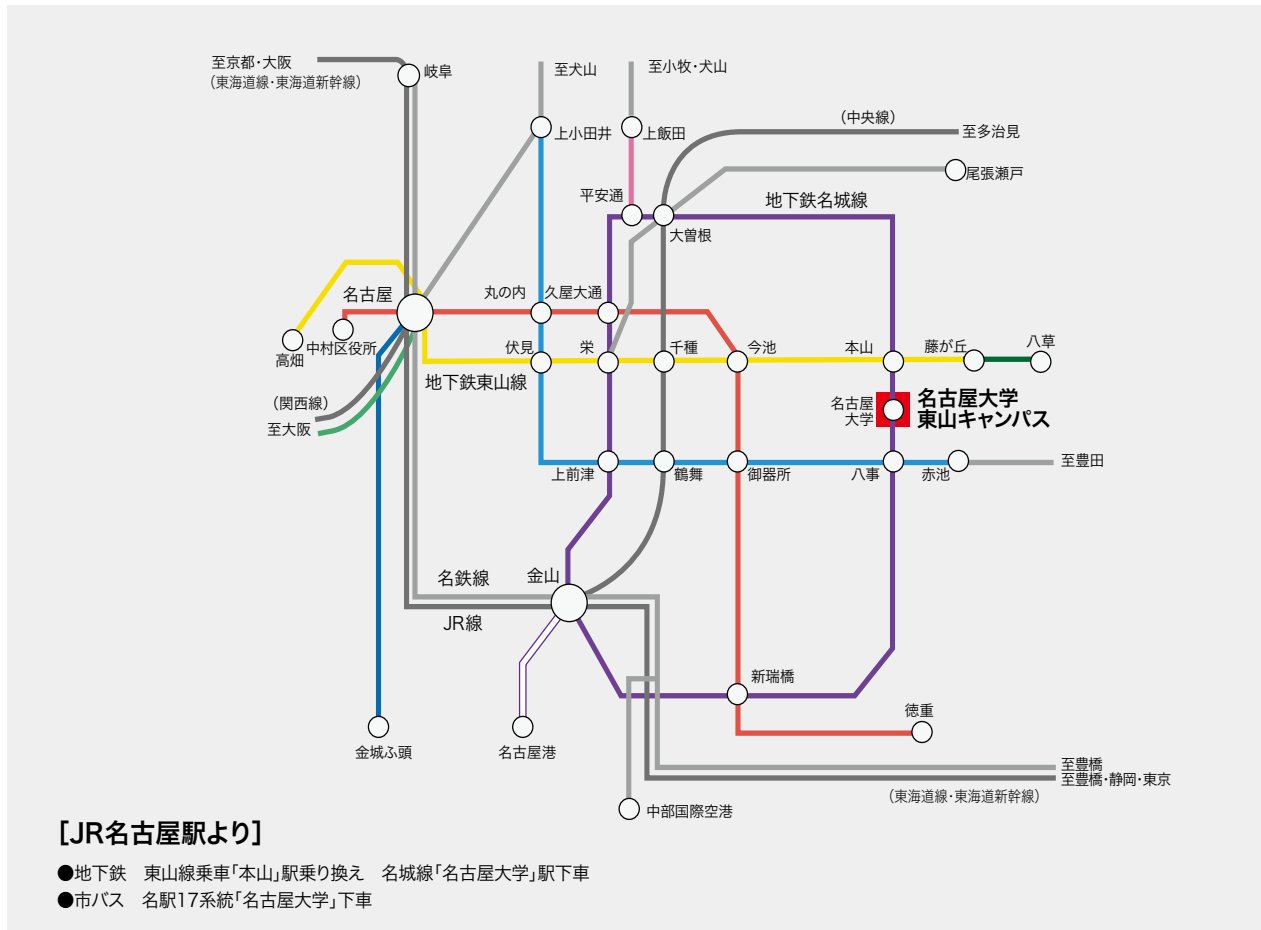
2 博物館野外観察園・セミナーハウス

教育研究のための植物500種類以上を公開。セミナーハウス2Fでは企画展も。開館時間: 10:00-16:00 休館日: 日・土曜・祝

1 博物館 (古川記念館)

名大の歴史や研究はもちろん、地域の自然やアートの展示を無料開放。開館時間: 10:00-16:00 休館日: 日・月曜 Tel. 052-789-5767

名古屋大学東山キャンパスまでの案内図



名古屋大学博物館

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL : 052-789-5767

FAX : 052-789-5896

H P : www.num.nagoya-u.ac.jp

本要覧は皆様からの寄付金により制作しました。



Nagoya University Museum

名古屋大学博物館

〒464-8601 名古屋市千種区不老町